

平成27年度 学校自己評価書

小美玉市立堅倉小学校 校長 櫻井 保男

1 今年度の取り組みの概要

- 児童の学習習慣の確立と基礎的・基本的事項の定着
- 自分の考えや解決方法を表現する能力を高めることに視点を当てた授業研究の充実
- 児童の思いや考えを生かした係・委員会活動など特別活動の充実
- 学校生活の基盤となる児童同士の好ましい人間関係づくり
- 保護者や地域との双方向による情報発信
- 学校支援ボランティア組織の有効活用

<達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る>

◎ 達成目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1	基礎・基本の確実な定着を図り，思考力・判断力・表現力等を高める学習指導を推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
自分の考えや解決方法を表現する能力を高める授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・支持的学級風土を基盤にして学び合う分かる授業づくり ・専門性を生かした学年内教科担当制の実施 ・TT による指導や ICT の活用等による個に応じた指導の充実 ・家庭学習の手引きの活用，「ノートの達人」コーナー設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で「分かった・できた」と感じる児童の割合 87% ・書く・話し合う力がついてきたと回答する児童の割合 86% ・家庭学習でどんなことをどのように学習したらよいか分かっている児童の割合 88% 	B
児童の思考力・判断力・表現力等の育成と人間関係づくりに関する指導法の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進プロジェクトチーム訪問や校内研修支援訪問を通じた取組 ・ミドルリーダーを推進役とした研究体制の確立 ・学年ブロックや研究部を中心とした指導案検討会や授業反省会等校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修が授業力向上や資質向上に役立っていると回答する教師の割合 94% ・自分の役割を自覚して授業研究に積極的に参画している教師の割合 94% ・校内研修が充実していると回答する教師の割合 94% 	A

◎ 達成目標 2 についての具体的な取り組み

組織目標 2	相手を理解し，互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくりを推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
児童が自ら活動を工夫し，楽しみながら協力し合って取り組む係・委員会活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動での話し合い活動 ・発達段階に応じた自主的・自発的な係・委員会活動（スペシャルイベント企画）の推進 ・異学年交流の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと回答する児童の割合 86% ・係・委員会活動をみんなと協力して楽しく行うことができていると回答する児童の割合 90% 	A
互いに相手の身になって考え，支え合い励まし合える学級経営を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・温かな人間関係づくりの推進 ・道徳や特活を中核にした人権教育の推進（言語環境の整備・いじめをなくそう集会等） ・読書活動の充実（朝の読書や読み聞かせ・学校図書館の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない温かな人間関係づくりに努めていると回答する教師の割合 83% ・他の人の気持ちになって考え，行動していると回答する児童の割合 84% 	B

◎ 達成目標 3 についての具体的な取り組み

組織目標 3	保護者・地域との情報の共有化を図るとともに、双方向の連携を推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
保護者等の立場に立った情報提供を行い、信頼関係の構築に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等のニーズに応じた学校だより等の各種通信の発信 ・緊急時メール配信システムの活用 ・子どもの変化を見逃さない保護者との情報連携 ・学校評価の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は教育活動等の様子について情報提供をしていると回答する保護者の割合 95% ・学校だよりを月2回発行する。 ・親子会議を年間5回開催と結果等の情報提供 ・年間計画への学校支援ボランティアの位置付け 	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

- 平成25・26年度の算数科における実践研究を生かすとともに、昨年度からは、理科教育推進事業に係る小学校教科担任制モデル校として、高学年において理科を中心に学年内教科担当制を取り入れた。また、今年度は、学力向上推進プロジェクトチーム訪問指導等を通して、研究テーマ「相手や目的に応じて書く力を育む国語科学習指導の在り方」のもと、ミドルリーダー教員を推進役として、学年ブロックを中心に校内研修を充実させ、全学級で年1回は授業公開を行った。授業研究等に積極的に参画している教師の割合が94%と昨年度より上回り、教師の意識と授業力も向上した。その結果、授業で「分かった・できた」と感じる児童の割合が87%、書く・話し合う力がついてきたと回答する児童の割合が86%であった。しかし、茨城県学力診断のためのテストの結果を見ると、学年や教科でのばらつきが見られた。児童の考えを引き出す発問や板書構成等を工夫し、各教科において身に付けた知識や技能を活用する力の向上が課題である。
- 「堅倉小学校版 家庭学習の手引き」の活用や、「ノートの人」コーナーの設置等により、家庭学習の習慣が身に付きつつある。家庭学習でどんなことをどのように学習したらよいか分かっている児童の割合が88%であった。多様な工夫が見られる家庭学習の進め方の指導とともに、授業中においても各教科のノート指導の充実が課題である。
- 支持的学級風土を基盤にした授業づくりと温かな人間関係づくりを学級経営の両輪と考え、道徳や特活等においても互いのよさを伸ばす指導を重視した。学校が楽しいと回答する児童の割合が86%、係・委員会活動をみんなと協力して楽しく行うことができていると回答する児童の割合が90%と、学校や学級が心の居場所と感じられる様子がうかがえる。特に、委員会活動におけるスペシャルイベント企画では、自主的・自発的な活動が多くみられ、児童が自己有用感や達成感等の成功体験を味わうよい機会となっている。道徳の時間やいじめなくそう集会等を充実して、互いに相手の身になって考え、支え合い励まし合える実践力を高めることが課題である。
- 学校だより等の発行と併せてHPや緊急時メール配信等を活用して情報発信を行い、保護者には概ね満足をいただいている。保護者からの多様な意見を受け止め、誠実に早期対応をしていく。

3 保護者や地域の皆様へ

学校教育目標「確かな学力と豊かな心をはぐくみ たくましく生きる児童を育てる」の実現に向けて、「思考力・判断力・表現力等を高める授業づくり」「互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくり」「保護者・地域との双方向の連携」の3つ柱を立て各種教育活動を推進してまいりました。

一つ目の「学力向上」については、教師の授業力向上が児童の学力向上に直結すると考えて校内研修を推進し、児童の学習意欲の向上や学習習慣の定着に成果が見えています。保護者の皆様にも家庭学習の時間確保と内容の充実についてご協力をいただきながら、さらに校内研修を充実して授業力向上に努めてまいります。二つ目の「人間関係づくり」については、道徳の時間や特別活動、学校行事等いろいろな機会を取り上げながら、体験活動を重視して豊かな心をはぐくんでまいります。三つ目の「信頼関係の構築」については、アンケートや皆様からの直接のご意見を生かした学校運営に努めております。今後も、学校だよりやHP等の内容を充実して様々な情報を発信してまいりますので、学校に足を運んで授業や児童の様子をご覧いただき、学校の取組について、本校職員と言葉を交わしていただくと幸いです。